

# フラッシュユ

## JA青森



### 令和5年度青森圏域スマート農業フェア (10/22)

青森市はJA青森中央野菜センターで、農業者へスマート農業機器導入の意欲を持ってもらおうと、令和5年度青森圏域スマート農業フェアを開いた。

出席した西秀記青森市長は「スマート農業機器導入による効果などの報告を直接聞いてもらい、今後の参考にしてほしい」とあいさつした。JA青森管内ではスマート農業機器の導入が年々増加傾向にある。

## JAごしょつがる



### 作業の負担軽減目指す 農業用AIロボット (11/22)

JAごしょつがる管内にある五所川原市のリンゴ園で、JA全農あおもり主催の農業用AIロボットによる自動運転デモ実演会が実施された。

実演会には同JAの営農指導員2人と、リンゴ生産者が7人参加。収穫したリンゴを積んだロボットが、設定した場所まで自動で走行する様子を見学した。実演会を重ね精度を高め、来年4月から販売する予定。

### リンゴ学習 (10/24)

弘前市五所地区のリンゴ園で相馬小学校3年生児童16人と相馬中学校生徒16人が有袋ふじの収穫作業を行った。

毎年、県女性組織協議会の事業「農業ふれあい教室」として小学3年生を対象に、春先の授粉から、摘果、袋かけ、葉とり、袋はぎ、絵入りリンゴ用シール貼りのほか、収穫までを行っている。

## JAつがるにしきた



### 地域の小学校で出前授業 (11/15)

JAつがるにしきたは、鯉ヶ沢町立舞戸小学校で小学5年生23人に対し、米作りに関する「出前授業」を行った。地域農業についての理解を深め、「食」と「農」の大切さを学んでもらうのが目的。

今回は総合的な学習の時間の一環として、JAの担当者が種まきから田植え、稲刈りなどの過程についてテキストを使い説明した。

## JAつがる弘前



### 2023年産サンふじ初売り (11/14)

JAつがる弘前の主力品種である2023年産晩生種サンふじの初売りが、東京・大田市場の東京青果と大阪市場の大果大阪青果で行われた。

東京に1765㌔(1㌔10\*<sub>10</sub>)、大阪に2340㌔(同)出荷、「特選」の最高値が東京は1㌔(28玉)50万円、大阪は同75万円。平均単価は東京が1㌔5514円(前年比341円高)、大阪が同5933円(同467円高)で取り引きされた。

## JA相馬村







J A 津軽みらい

ジャンボおにぎり完成 (11/19)

J A 津軽みらいは、「第11回ふじさき秋まつり」で恒例のジャンボおにぎりづくりを行った。ブランド米「青天の霹靂」10俵分(約600kg)を使用。同JAのとさわ良質米生産部会の部会員や、女性部員ら13人が米をピラミッド型の木枠に詰め込み形を整えた。

おにぎりの高さは約2m。正面にマスコットキャラクター「ジャン坊くん」の顔を切り取った海苔を貼り付けた後、万歳三唱で完成を祝した。



J A ゆうき青森

天間林小アピオス収穫体験 (11/14)

七戸町立天間林小学校3学年児童37人は、5月に植え付け作業を行ったアピオスの収穫作業に挑戦した。

野菜振興会アピオス部門長をはじめ、3人の生産者らが指導し、児童らは熊手で土を掘り起こしながら収穫作業を楽しんだ。収穫したアピオスは、より甘みのある美味しいものにするために寒ざらしを行い、糖度を高めた後、調理実習を行う予定。



J A 十和田おいらせ

**ゴボウの品質上々(11/15)**  
 J A 十和田おいらせ管内で、ゴボウの収穫が最盛期を迎えている。夏場の猛暑や干ばつで生育の停滞が心配されたが、その後は順調に生育し品質も上々。  
 主力品種は「柳川理想」、白肌と軟らかい歯ごたえが特徴で、香りが高い。収穫は12月上旬まで続く予定で、2023年産の生産農家は214戸、作付面積は220ha。出荷量4382トンを見込み、年間取扱高6億5730万円を目指す。



J A おいらせ

**長いも坪掘り共励会(六戸地区10/31、三沢地区11/7・8)**  
 J A おいらせやさい推進委員会長いも部会は、六戸地区と三沢地区で上北地域県民局農業普及振興室三沢分室とともに長いも坪掘り調査を行い、六戸地区では15戸、三沢地区では17戸が参加した。  
 11月下旬から本格化する収穫の前に、葉が完全に枯れてからつる切りするよう呼びかけた。今年は平年より10%ほど長いもが、曲がりやボリュウム不足の傾向が見られた。



J A 八戸

お客様感謝DAYで支店賑わう (11/18)

J A 八戸五戸支店は、地域ふれあい活動として「お客様感謝DAY」を五戸支店駐車場にて開いた。フリーマーケットやくじ、地場産の大根、ネギやニンジンの詰め放題などの野菜販売、女性部川内地区による串もち販売を行った。

来場者は「立派なニンジンをお袋いっぱい詰めることができ嬉しい」と笑顔で話した。



## 女性部の更なる活性化へ 県外視察研修

県農協生活指導員連絡協議会は11月1日、北海道函館市で県外視察研修を行った。県内6JAから12名の生活指導員が参加し、クラフトベースモノクラ「レザークラフトKen」でのレザークラフト体験と、JA函館市亀田での研修を行い、先進的な活動を学び見識を深めた。

「レザークラフトKen」では、シンプルで丈夫な革を用いたレザークラフトを体験し、「長く使えるものを選ぶ」・「ごみの発生を減らす」などリデュース活動について知識を深めた。

JA函館市亀田では、JA函館市亀田女性部が農産物加工を中心に活動を活性化させている事例を学んだ。

また、こども食堂への支援ではコミュニティ誌の活用やフードバンク活動団体との連携が重要であるなど、支援する際のポイントを学んだ。

参加者は「今回の研修を今後、JAの女性部組織の更なる活性化へ繋げていきたい」と語った。



▲レザークラフト体験をする参加者

## 青森の食の魅力を発信 大農林水産祭

JAグループ青森は11月11日と12日、青森産業会館で開かれた第14回津軽海峡交流圏「大農林水産祭」に「JAふるさと市」を出展し、国消国産についてのPRや農畜産物・県産加工品の販売を行った。

大農林水産祭は、青森の食の魅力を県内外に発信するため、本県の豊かな農林水産物や加工品、ご当地グルメなどの販売、さらに南北海道からの出展商品を紹介・販売するイベント。JAやJA

女性部のブースではリンゴやゼネラルレクラークのほか、手作りの焼き肉のタレなどが並べられた。

また物販コーナーや展示コーナーなどの他、「お米大使ミニステージ」など会場を賑わせた。

JA青森中央会のブースでは、県内JAの加工品や笑味ちゃんグッズが当たる抽選会や、乃木坂46などの広報資材を活用し国消国産をPRした。



▲来場者で賑わう会場



▲JAごしょつがるのブース



▲JAゆき青森のブース



▲JA八戸のブース

### 直売所企画で農産物抽選会

JA青森中央会は11月24日、県産農産物が当たる「青森県JA直売所キャンペーン」の抽選会を青森市の県農協会館で行った。応募総数4万1785通の中から、A賞「県産牛肉しゃぶしゃぶ用(400g)」10人、B賞「県産りんごジュース 希望の雫(280ml×24本入り)」20人、C賞「県産りんご サンふじ(5kg)」20人、D賞「県産ながいも(5kg)」20人、E賞「県産品詰合せ」40人、F賞「県産米 晴天の霹靂(2kg)」110人、計220人の当選者に贈る。

抽選したJA青森中央会小山主税常務理事は「キャンペーンを機に県内直売所の知名度アップや売上増加に繋げたい」と述べた。



▲A賞の抽選をする小山常務



詳細はこちら

### 行事(12/10~1/10)

#### 12月

- 13~15日 県JA協議会 農業視察研修(岡山県、兵庫県)
- 13日 JA参事経営問題研修会(ホテル青森)
- 13日 県農協情報対策委員会・幹事会(ホテル青森)
- 13日 参協定例会(ホテル青森)
- 15日 令和5年度次世代リーダー育成研修会修了レポート発表会(県農協会館)
- 16日 第42回青森県「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール表彰式(ホテル青森)
- 19日 令和5年度第2回新規就農者支援対策作業部会(県農協会館)
- 20日 管理・監督者クラスフォロー研修会(津軽地区)(県農協会館)
- 20日 農業税務実務講座[事業承継編](県農協会館)
- 22日 管理・監督者クラスフォロー研修会(県南地区)(JA十和田おいらせ本店)

#### 1月

- 10日 定例理事会、県連役員・運営委員体制にかかるJAおよび県連代表者会議(県農協会館)



## 「JAバンクローン青森県産品プレゼントキャンペーン」実施中!

JAバンク青森では、2023年12月1日から「JAバンクローン青森県産品プレゼントキャンペーン」を実施している。期間は2024年4月30日まで。

このキャンペーンは、期間中にJAマイカーローン・JA教育ローン・JA多目的ローン・JAフリーローンのいずれかを新規でご契約された方全員に青森県産品をプレゼントするもの。

A～Eの5つのコースの中から好きな商品を選ぶことができる。



JAバンクローンの主な使いみちは、次のとおり。

### JAマイカーローン

- 自動車・バイク・除雪機（いずれも中古含む）の購入資金
- 他金融機関・信販会社等からの借換資金（残価設定型クレジット含む）

### JA教育ローン

- 就学されるご子弟またはご本人の教育に関する全ての費用
- 他金融機関・信販会社等からの借換資金と借換えに伴う諸費用

### JA多目的ローン・JAフリーローン

- 生活および事業に必要な資金
  - ※ ただし、JA多目的ローンは資金使途の証明が必要です。
- 他金融機関・信販会社等からの借換資金と借換えに伴う諸費用（ただし、負債整理は除く）

ご利用は、JA窓口へのご来店以外にもインターネットを使って「JAネットローン」から24時間365日いつでも簡単に申込みができる。

キャンペーンの詳細や各JAが取扱うローン商品に関するお問い合わせは、最寄りのJA窓口まで。

## 第14回大農林水産祭にJAバンクPRブースを出店

農林中央金庫青森支店は、11月11、12日に青森産業会館で開催された「第14回津軽海峡交流圏大農林水産祭」に、JA青森の協力を得てJAバンクPRブースを出店した。

当ブースでは、JAバンクのマスコットキャラクターの「よりぞう」がスタッフと一緒に来場者をお出迎えし、ポケットティッシュを手渡してJAバンクのご利用を呼びかけたほか、JAバンクご利用者への感謝とJAバンクアプリの認知度向上・利用者拡大を目的にスピードくじを実施し、JAバンクアプリをご利用中のお客様やその場でJAバンクアプリをダウンロードしたお客様に、「よりぞうグッズ」をプレゼントした。

4年ぶりに通常開催となった今回は、時折雪まじりの雨が降るなど、あまり天候に恵まれなかったが、入場制限があった前回は大幅に上回る来場者が訪れたこともあって、その場でJAバンクアプリをダウンロードいただいたお客様の人数は前回のほぼ2倍となった。

また、人気者のよりぞうは、子供達と遊んだり、写真撮影に応じたりして来場者を楽しませた。



▲来場者でにぎわうJAバンクのブース

### 行事 (12/10～1/10)

#### 農林中央金庫

12月

19日

JAバンク青森運営協議会専門委員会（ウェブ会議）

1月

10～11日

ライフイベントセールスリーダー養成講座（第4回）（県農協会館）

## りんご高密度植わい化栽培検討会

JA全農あおもりは10月16日、JAごしょつがる管内の園地（五所川原市）で「りんご高密度植わい化栽培検討会」を開いた。りんごの栽培指導を行うJA営農指導員らが参加し、「高密度植わい化栽培」が導入された園地で、生育状況や栽培管理状況を確認した。

同園地は、ふじやトキなど計4品種の1年生および2年生フェザー苗木を合計565本定植している。ふじとトキは定植して4年目を迎え、今年が3年目の収穫期を迎える。樹体の生育や栽培管理も申し分なく、夏の猛暑の影響で品質低下が懸念されたものの、着果量、着色等果実品質は概ね良好であった。

この他、(株)原田種苗青森支店で研修会を開き、先進地である長野県の高密植栽培の普及に至った経緯や栽培の特徴、課題等を共有した。

全農あおもりは、わい化栽培の一つの選択肢として、平成25年から、JA全農長野などの協力を得て、高密度植わい化栽培の普及に取り組んでいる。この栽培法は早期多収、均質生産、省力低コスト生産を目的とした栽培様式で、一般的に市販されている棒状苗木ではなく、M9台のフェザー苗木を定植し栽培することが基本とされている。普及には、苗木の安定した供給に加えて、定植後の樹相診断方法に基づいた肥培管理や野ネズミ対策等の確立が課題。

全農あおもりでは日本一のりんご産地として、産地の維持・拡大のため高密度植わい化栽培の普及に向けた検討を進めていくこととしている。



▲りんごの生育状況および栽培管理方法を確認する参加者ら

## 高圧ガス第二種販売主任者試験対策講習会

JA全農あおもりは10月19日、青森市の県農協会館で、高圧ガス第二種販売主任者試験対策講習会を開いた。県内JAや関連会社からLPガスに係る担当者らが参加し、国家試験に向けて、LPガスの保安管理技術や法令について学んだ。

講習会では、LPガスの容器や機器、化学の基

礎知識について過去の出題傾向も踏まえながら試験対策を行った。

全農あおもり営農購買部生活課の桑田和仁課長は「ガスの保安業務において有資格者の確保が喫緊の課題である。合格を目指して頑張ってもらいたい」と話した。

ガス販売所には顧客の保安確保の役割を担う業務主任者1名およびその代理者1名の選任が最低でも必要で、それには有資格者であることが選任要件の一つになっている。また、有資格者が法定人数を満たさない場合は事業停止となる。有資格者の確保は、事業運営上、JAの共通課題となっている。



▲講習を受ける参加者

## 令和5年産大豆取扱会議

JA全農あおもりは令和5年産大豆の委託販売申込数量を10万1744俵（1俵60<sup>kg</sup>、約6100<sup>kg</sup>）とした。水害の影響が甚大であった4年産実績と比べ4万4230俵増（前年比177%）となった。10月30日、青森市の県農協会館で開いた「令和5年産大豆取扱会議」で報告した。

国産大豆需要は巣ごもり需要が治まり、コロナ禍前の水準まで低下している。3年産は前年産の不作から回復したものの、消費ペースが追い付かず、4年産使用が後ろ倒しされており、在庫が一部滞留している。さらには、輸入大豆が潤沢に入庫される環境のもと、国産の需要が緩む状況にある。

全農あおもりは販売の取り組みとして、入札取



▲資料を確認する出席者



引を計画的に上場し、形成される指標価格の安定を図るとした。また、販売戦略と連動した受け渡しに対応できるよう、確実な集荷と円滑な入庫処理をJAおよび保管管理者に協力を求めた。

全農あおもりの長内敏也米穀部長は「県内の4年産大豆においては、8月上旬の豪雨により冠水したほ場が多数発生し減収した。5年産は梅雨明けの猛暑の影響により、昨年と異なる形で懸念されている。各JAの作柄状況と今後の展開について本会議で共有し、販売強化に取り組む」と述べた。

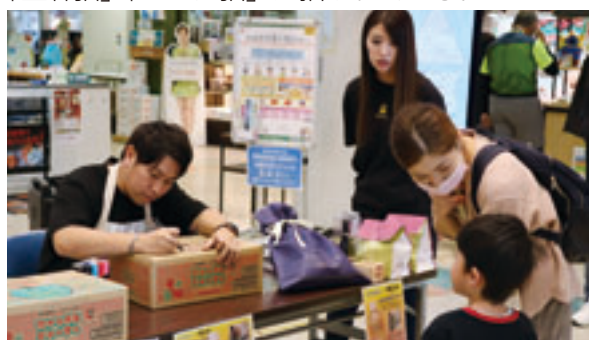
### 「にゃっふるじゅーすっ」即売会

JA全農あおもりは11月3日、青森市の青森県観光物産館アスパムで、りんごジュース「にゃっふるじゅーすっ」の即売会を開いた。JAアオレンとのタイアップ企画だ。

会場ではGOMA氏による同商品の販売が行われ、購入者には特典としてペットボトルへのサインを行ったほか、ケースで購入した方にはその場で直接段ボール箱に絵を描き込むアートライブも実施した。

実際に同氏のサイン入りジュースを購入した客は「GOMAさんのデザインをきっかけにジュースを知ったが、りんごのおいしさが詰まっている」「ケースに絵を描いてもらった。おいしいジュースと素敵な絵をもらってどちらもうれしい」と嬉しそうに話した。

「にゃっふるじゅーすっ」は、青森県出身のアーティストである同氏とアオレンがコラボした商品。同氏がパッケージをデザインし、可愛らしい「王林猫」「ジョナ猫」が描かれている。



▲段ボール箱にイラストを描く GOMA 氏

### やさい作品コンクール審査会

JA全農あおもりは11月6日、青森市の県農協会館で「やさい作品コンクール審査会」を開き、入賞作品を選んだ。

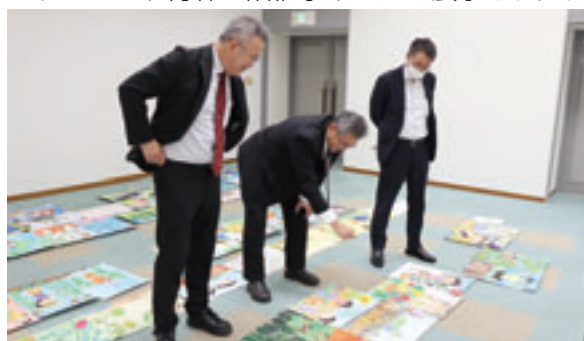
県内172校の小学校から4620点（内訳＝図画586点、習字4034点）の応募があり、青森市立造道小学校の原昌志校長ら6人が審査した（昨年＝189校、4642点）。

図画は、好きなやさいや夢のやさいの生育・作業状況など、やさいに関するものをテーマとし、

習字は半紙・条幅ごとに課題を指定した。

審査に際して、審査委員長の原校長は「青森県には全国に誇るやさいが沢山あり、このコンクールには子供たちに小さい頃から県産やさいに親んでもらうことや、地産地消の意識を持ってもらうことを目的に実施している。少子化等の影響下でも応募数をある程度維持できているのは、コンクールが県内に浸透している証拠ではないか」と話した。

入賞作品は、11月18日と19日の2日間、青森市のサンロード青森2階催事ホールに展示された。



▲審査する関係者ら

### 青森人の祭典

JA全農あおもりは11月11～12日の2日間、「2023青森人の祭典」に出店した。

祭典は昨年に引き続き、青森県の特産品の販売、観光・文化のPRを上野恩賜公園の中央噴水広場（東京都台東区）で行った。当イベントは45団体が参加し、来場者は2日間で11万人と会場は盛り上がりを見せた。

ブースでは、県産米（青天の霹靂・はれわたり）、りんご（早生ふじ・トキ）、野菜（にんにく・ながいも・ごぼう）、りんごジュースを販売した。また、県産米の購入者にはバックごはんをプレゼントした。

来店者は「いつも青天の霹靂を食べているが、新品種のはれわたりを試してみたい」、「青森で飲んだりんごジュースがここで購入できうれしい」などと話した。



▲ブースで県産品を販売する担当者ら

### JA肥料農薬担当部課長会議

JA全農あおもりは11月15日、青森市の県農協

会館で「JA肥料農薬担当部課長会議」を開き、JA担当部課長らが出席。令和6年度農薬取扱要領について協議した。

担い手接点強化の一環として「低コスト剤事前予約推進要領」を新たに制定し、低コスト剤の普及拡大に努めるとともに、安定供給を図るため、事前予約推進を実施することとした。

また、近年の高温影響による病害虫対策として、「交信かく乱剤普及推進要領」も新たに制定した。このほか、米、りんご、やさいに関する生産指導情報や昨今の農薬情勢について共有した。

全農あおもりの成田具洋副本部長は「原体・製剤価格や電気料金の値上がりにより、農薬価格の高止まりが続いている。予約受注による安定供給や担い手直送規格の普及拡大をはかり、生産コストの圧縮に努めていきたい」と話した。



▲あいさつをする成田副本部長

### ごっくんキャンペーン第2弾抽選会

JA全農あもりと青森県牛乳普及協会は11月15日、青森市の県農協会館で、9月1日から10月末日まで展開した令和5年度第2回目となる「牛乳ごっくんキャンペーン第2弾」のプレゼント抽選会を開いた。合計16,736件の応募の中から、当選者210人を決定した。

当選者には賞品として、T-falの調理器具セットを10名様、あもり和牛焼肉用カルビを50名様プレゼントする。

県牛乳普及協会の担当者は「第1回目のキャンペーンよりも多くの応募があった。このキャンペーンをきっかけに、より多くの方に県産牛乳を飲んでもらえたら」と話す。



▲抽選する担当者ら

### クイズに答えてあもり和牛 or 乳製品 詰合せをGETしよう！キャンペーン



詳細はこちら

### 「はれわたり」絶対もらえるキャンペーン



詳細はこちら

### ごっくんキャンペーン第3弾



詳細はこちら

### 行事 (12/10～1/10)

1月10日 運営委員会 (県農協会館)



## 令和5年度JA共済青森県小・中学生 第67回書道コンクール・第46回交通安全ポ スターコンクール表彰式・展示会の開催

JA共済連青森は10月25日、青森県農協会館において、「令和5年度JA共済青森県小・中学生書道・交通安全ポスターコンクール表彰式」を開催した。

表彰式では、JA共済連青森の沼田本部長から、書道半紙・条幅の部、交通安全ポスターの部の「最優秀賞」受賞者と「優秀学校賞」受賞校へ賞状と副賞の授与が行われた。

なお、「最優秀賞」受賞作品は県の代表として全国コンクールへ出展される。

また、11月11・12日、青森市青森産業会館（ロビー）、18・19日、弘前市さくら野百貨店（4階）で同コンクールの展示会を開催した。

会場には、書道半紙・条幅の部、交通安全ポスターの部の中から選ばれた「最優秀賞」、「特選」、「準特選」の81作品が展示された。

来場者は「小・中学生が書いたとは思えないほど上手だ」と称賛し、自身の展示された作品を見



▲沼田本部長より表彰される受賞者



▲最優秀賞、優秀学校賞を受賞された皆さん

に来た受賞者は「来年も賞を取れるように頑張りたい」と決意を固めていた。



▲11日・12日の様子（青森市産業会館）



▲18日・19日の様子（弘前さくら野）



### 行事（12/10～1/10）

- |     |                  |
|-----|------------------|
| 12月 |                  |
| 12日 | 共済担当次課長会議（県農協会館） |
| 1月  |                  |
| 10日 | 運営委員会（県農協会館）     |

## 収入保険をご紹介します！ 令和6年1月から制度が変わります

### 1 基準収入の算定の際に甚大な気象災害による影響を緩和します

気象災害が原因で農業収入が下がった場合、これまでは、被災した年の農業収入をそのまま用いて基準収入を算定していましたが、制度見直しにより、被災した年の農業収入をその年の基準収入の8割まで上方修正して基準収入を算定できるようになりました（気象災害特例）。

これによって、気象災害に被災した方の基準収入の算定に用いる過去の平均収入が、従来より高く設定できるようになりました。

令和6年加入者は、令和5年の農業収入の申告時に申し出ることによって、令和5年以前に被災した年の農業収入も調整することができます。

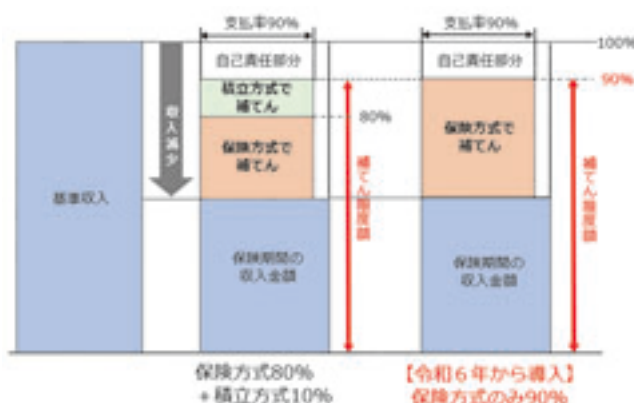
### 2 保険方式のみで9割を補償限度とするタイプを新設します

積立金の負担軽減を求めるニーズに応じ、保険方式のみで基準収入の9割を補償限度とするタイプが新設されます。

保険方式だけで、従来からある積立方式を併用するタイプと同じ補償が受けられます。

積立金がないため、新規加入時の負担が少なくなります。

積立方式を併用するタイプに比べ、保険料は増えますが、保険料の全額が税務上の必要経費となるため、所得税・法人税が軽減されます。



### 3 青色申告1年分のみで加入できるようになります

これまで、収入保険に加入するためには、2年以上の青色申告の実績が必要でしたが、令和6年1月の加入から1年分の青色申告実績で加入できるようになりました。

青色申告の実績期間が短縮されたことで、令和5年から青色申告をされる方であれば、令和6年1月から収入保険に加入することができます。

**加入手続きは12月末まで！**（保険期間 令和6年1月～12月）

詳しくは、青森県農業共済組合へお問い合わせください。

青森県農業共済組合本所 ☎ 017-775-1161

農林水産省  
ホームページ  
はこちらから→





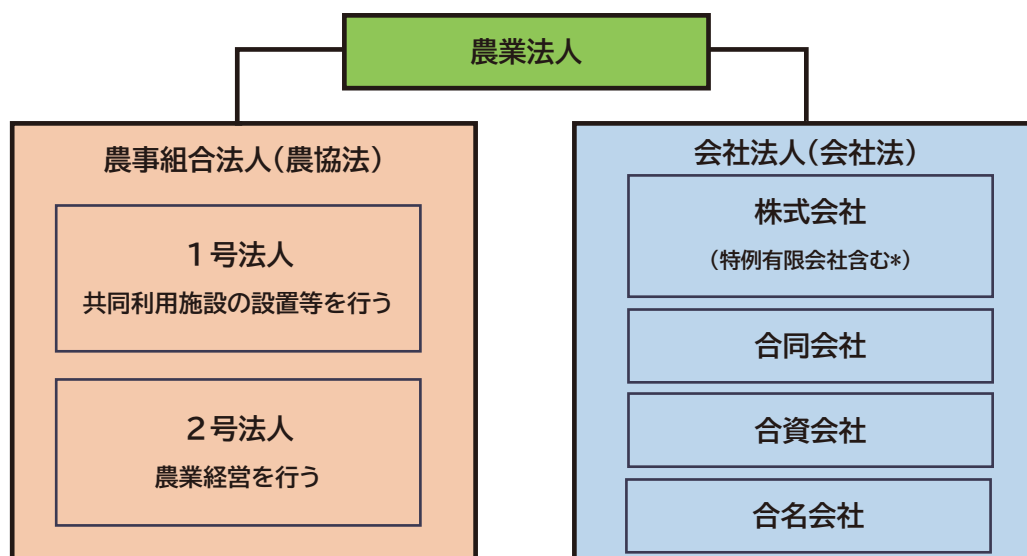
# 実践 農業者支援

## 新規就農者の受け皿として農業法人について考える

近年、40代以下の新規就農者は年間2万人前後（全国）で推移しています。中でも、農業法人に就職する「雇用就農」の割合が増えています。農業法人に就職するメリットとして①給料をもらいながら農業経営を学べる ②初期費用がかからない ③独立後のサポートなどがあげられます。また、「雇用就農」の増加と平行して、後継者確保や円滑な事業継承を目的とした農業法人が設立され、その数は年々増加しています。このことから、農業法人の概要について改めて紹介します。

### 1. 農業法人の種類

農業法人は土地利用型農業をはじめ、施設園芸、畜産など、農業を営む法人の総称です。組織形態としては、会社法に基づく株式会社や合同会社などの会社法人、農業協同組合法に基づく農事組合法人に大別されます。



\*特例有限会社とは、2006年5月の会社法施行に伴い有限会社法が廃止され、それ以前に設立していた有限会社をいう。

全国の令和4年度の農業経営体は約975,100経営体で、そのうち法人経営体は約32,200経営体（会社法人が約21,200、農事組合法人が約7,700）とされる。

### 2. 法人形態の特徴

#### (1) 農事組合法人

農事組合法人は農業経営だけに特化した法人形態です。構成員は社員ではなく「組員」と呼ばれます。農業生産において協同して作業することで、組員共同の利益増進を目的としており、JAに近い特徴を持っています。

#### (2) 株式会社

株式会社は、農業法人で最も多く選ばれている営利目的の法人形態です。株式を発行し、それと引

き換えに出資者から資金（資本金）受け取ることで、資金調達を行います。定款の認証が必要で、設立費用は高くなりますが、その分社会的な信用度は最も高い形態とされます。

### (3) 持分会社（合同会社・合名会社・合資会社）

合同会社、合名会社、合資会社は持分会社といわれ、株式会社と同様に営利目的の法人形態です。出資者のうち、会社倒産時などに、債権者に対して負債の全額を支払う責任を負う「無限責任者」が経営の権限を持ちます。

社員全員が出資額の範囲内のみ責任を負う「有限責任者」であるのが合同会社、社員全員が無限責任者であるのが合名会社、有限責任者と無限責任者からなるのが合資会社です。

このうち合同会社は、2006年施行の会社法で設けられた比較的新しい形態で、出資者全員が会社の経営にも権限や決定権を持ちますが、有限責任者のため、出資額の範囲内で責任を負います。株式会社に比べて設立しやすく費用も抑えられるため設立が増えています。

## 3. 法人形態の比較

項目	農事組合法人	株式会社	合同会社
根拠法	農業協同組合法	会社法	会社法
構成員	組員（農民）3名以上	株主1名以上	社員1名以上
基本方針の決定	1人1票制による総会の議決	1株1議決権による株主総会の議決	1人1議決権による全員一致（定款で変更可）
事業の制限	農業経営（2号法人）の場合 農業・農業関連事業に限定	制限なし（*）	制限なし（*）
定款認証	不要	必要	不要
組織変更	株式会社・一般社団法人に変更可 合同会社に（直接）変更不可	合同会社に変更可 農事組合法人に変更不可	株式会社に変更可 農事組合法人に変更不可

\* 農地所有適格法人の場合は、農業・農業関連事業が売り上げの過半

## 4. まとめ

農業の担い手不足と高齢化の問題は、長い間指摘され続けています。特に担い手不足は深刻で、後を継ぐ人がいなければ、その農業は無くなってしまいます。近年では新規就農支援の政策が増え、中でも農業法人への就職が注目されています。本県の場合、冬期間の農業経営が難しいため、農事組合法人では継続雇用できないなどの課題もありますが、農業における事業継承の難しさも含め、農業法人の育成、連携について検討していく必要があります。

（中央会 農業対策部）





# 経営の窓口

## 求められる協同組合の教育活動について

### はじめに：

近年、多様な価値観を認め、重視する流れが広まっており、個人が持つ能力や技能、資格などは、生産力や経済活動に価値をもたらす「資源」とみなす考え方がある。

各企業においても、これまでの「人材育成に係る費用」という捉え方から「適切な投資によって人の資質の価値を高め、資産として積上げる」という方向への変革が始まっている。

我がJAグループの人材育成においては、平成24年10月の第26回JA全国大会決議を踏まえ、翌年以降の3年間で第1次として「人づくりビジョン全国運動」として取り組んできた。

主な取り組み事項の中では、「めざす職員像を明確にし、JA経営理念・経営戦略に基づく人材育成基本方針の策定・改訂に取り組むこと」としており、令和元年度からの第3次と当年度を含む第4次ではこれまでの取り組みを見直し、JA人づくりの新たな課題も含め人材育成に取り組んでいる。

JAの教育活動としては、組合員・役職員それぞれの立場で、中心核となるリーダーの育成が急務となっている。

### 1. 「JA人づくりの新たな課題」と「協同組合の学び」について

「JA人づくりの新たな課題」の柱は、「農業協同組合らしい人づくり」・「組織基盤の確立に向けた人づくり」・「経営基盤の強化に向けた人づくり」だが、その前提で「協同組合意識を持ち、激変する環境と課題を踏まえ迅速に変革し続ける人材が不可欠」としている。

「協同組合意識」は、JAに関わる組合員・役職員並びに地域住民が、日々の業務や協同組合活動への参画を通じて「体得」していくものであり、且つ、その志は「協同組合の理念」に収められる。

また、その理念に基づいて私たちが積極的に「対話」と「共有」することに「協同組合としての学び」があり、賛同する者が自主的に集まって今日のJAという組織体が存続していることを忘れてはならない。

### 2. 階層別研修カリキュラムの意義について

本会は各JAの人材育成基本方針に基づき育成支援するため、階層別研修として初級職員・中堅職員・監督者・管理者の4コースを設定し、「階層毎の組織における基本的な役割の理解」とその「役割を果たせる人材の育成」を意義として体系的なマネジメント研修を実施している。

研修は、どの階層も「組織」について考え、基本的な要素を事例や理論を通して学び、マインド部分としては自主性のみならず主体性を大切にしている。

普段の業務では意識が向きづらいこと、自然と個人の裁量に任せられることの中で、業務の効率や生産性の低下、コミュニケーションやモチベーションの低下が懸念されるものに対し、「問題意識」や「気づき」、「物事に対する多面的な考え方」を促し、「世の中の変化」に目を向けている。

フォロー研修では「個々がキャリアビジョンを考える」内容とし、参加者相互の交流と学びから得られる自立的な言動は、今後の経験学習から「体得」に結びつきやすいものと思われる。

今後において、各階層の間隙（世代間ギャップ＝価値観・文化・常識・思想などにズレが生じること）を埋める内容を盛り込み、ワークライフバランスと仕事に対する満足度向上を目指し取り組んでいく。

### 3. 各階層コース別：対象の目安とねらいについて

コース 項目	初級職員	中堅職員	監督者	管理者
対象者	入組2～6年	入組7～10年	係長、主任クラス	課長、支店長クラス
研修のねらい	初級職員が組織と職場における基本動作とは何かを習得する。 実務のプロを目指す覚悟を固め、実務能力の段階的かつ着実な向上を目指す。(先輩の補佐又は主務担当者として)	中堅職員が組織の中で果たすべき役割を理解する。 初級から中堅職員になったことへの意識を切り替え、覚悟を固める。 主体的な実務遂行能力の完成を目指す。(実務のプロであり上司の補佐として)	監督者が組織の中で果たすべき役割を理解し、役割を果たすためのマネジメントに関する基本的知識を習得する。 監督者になったことへの意識を切り替え、覚悟を固める。 仕事の実施面において管理者に代わり第一線の実務担当者(中堅・初級職員)を指導・監督しながら仕事の実施を目指す。(管理者代行として)	管理者が組織の中で果たすべき役割を理解し、役割を果たすためのマネジメントに関する基本的知識を習得する。 管理者になったことへの意識を切り替え、覚悟を固める。 仕事の合理的な仕組みをつくり、人が育つ職場づくりと同時に仕掛け運営を目指す。(組織の中での特定部門を経営者層に代わり経営する部門経営者として)

#### さいごに：

JAを含め世の中の企業が、人材不足と採用難で求職者側に吟味される風潮の中、期待し望まれて入組・入会した職員に対しては、採用後も計画的な人材育成に努めようと研修受講や各資格試験の受験を勧めるなど、人事側が躍起となるのは必然的なことである。

人材不足だからこそ「大切に育てたい思い」と「早く育てほしい願い」が混在するが、現実的な問題として「育成する人と時間」に制限がある。

業務を遂行しながら指導される側に「OJT指導が腹落ちしない」、「研修過多で消化不良」ともなれば「こんなつもりでは無かった…」などと解され、これからという時に即断即決で依願退職となる。

仕事は「少々の不便があっても安定雇用」より、「自己の素質とやりがい優先」を望みがちな新しい世代の価値観がこれからの「人材育成の過程」を益々難しいものとしている。

中間層も含め過度な期待などで個人が悩み、重圧感を覚え負担とならないように配慮し、仕事の段取りや説明以外で個人と向き合う時間を適に作り、随所でスキルアップの方向性を確認しながらフォローに努めていく必要性を感じている。

(中央会 経営対策部)





# 組織農政通信

## お米・ごはん食・日本食の重要性

「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールは、JAグループがすすめる「みんなのよい食プロジェクト」の一環として、これからの食・農・地域を担う次世代の子どもたちに、お米・ごはん食、日本の食卓と国土を豊かに作りあげてきた稲作をはじめとする農業についての学びを深めてもらうとともに、子どもたちの優れた作品を顕彰することを通じて、お米・ごはん食・日本食の重要性を広く周知することを目的として全国で実施している。

JAグループ青森では、毎日のごはんおいしかったことや家族とのコミュニケーション、お米・ごはん食に関する思い出や、考えたことなどを素直な気持ちで自由に表現するという課題で、県内の小・中学生を対象に、青森県「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールを毎年実施し、審査員により選ばれた入賞作品の中から特に優れている作品を全国コンクールに推薦している。

### 1. 応募校数および応募点数の推移

令和5年度の作文部門の応募校数は54校、応募点数は244点、図画部門の応募校数は76校、応募点数は207点となった。(別表参照)

作文部門では、家族の愛情や絆が描かれた作品、お米を通し、自分を取り巻く方々への感謝が綴られた作品が多く寄せられた。

図画部門では、昨年度に比べ応募校数・応募点数共に増加。応募校数はここ5年間で過去最多となった。家族や友人などと一緒にごはんを作ったり、食べたりした思い出、田植えや稲刈りなどを体験したことを表現した作品が多数あった。

(別表) 青森県「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール  
応募校数および点数の推移

#### 【作文部門】

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	応募校数	応募点数	応募校数	応募点数	応募校数	応募点数
第1部 (小1～小3)	32	23	33	22	32	30
第2部 (小4～小6)		44		47		36
第3部 (中1～中3)	23	160	22	180	22	178
合計	55	227	55	249	54	244

#### 【図画部門】

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	応募校数	応募点数	応募校数	応募点数	応募校数	応募点数
第1部 (小1～小3)	61	115	66	114	68	121
第2部 (小4～小6)		71		65		64
第3部 (中1～中3)	5	77	6	26	8	22
合計	66	263	72	205	76	207

## 2. 審査会の実施

令和5年9月29日、県農協会館で第42回青森県「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールの審査会を実施した。

審査基準に基づき、各部門共に、青森県知事賞、青森県教育委員会教育長賞、青森県農協中央会会長賞、優秀賞を決定した。



審査風景：作文部門



審査風景：図画部門

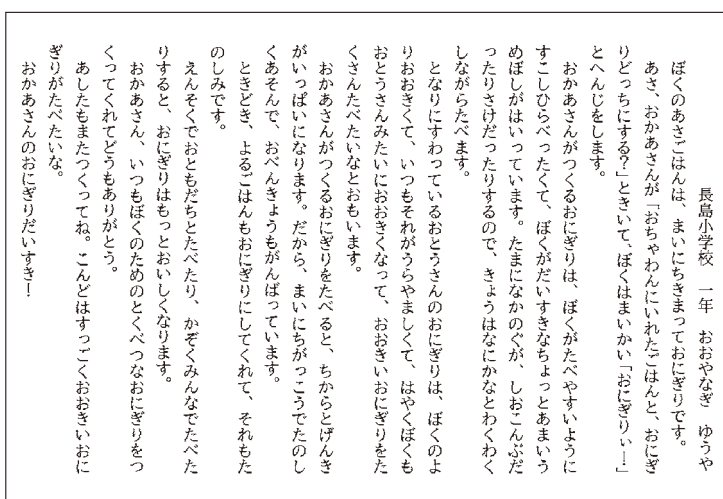
## 3. 表彰式の実施

作文部門で大柳裕也さん（青森市立長島小学校1年）の「おにぎりだいすき」、図画部門で加賀愛唯さん（八戸市立吹上小学校4年）の「さくらの下でお弁当」が最高賞の県知事賞に輝いた。

令和5年12月16日には、青森市のホテル青森で、第42回青森県「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールの表彰式を実施することとしている。

今後ともこのような取組みを進めることで、子どもたちにお米やごはんをもっと身近に感じてもらうとともに、さらに関心をもってもらえるようなきっかけにしていきたい。

（中央会 農業対策部）



●青森県知事賞（作文部門）…大柳 裕也



●青森県知事賞（図画部門）…加賀 愛唯



## 新たな仲間づくりと部員同士・親子交流の場として大好評♡ きらきらサークル研修会今年も開催！

青森県 J A 女性組織協議会は、令和5年度きらきらサークル研修会を開催した。

本研修会は、「年齢や住んでいる地域にとらわれず、同じ目的を持った女性部員、地域住民が参加できる」県女性協主催のイベントで、①女性部の新たな仲間づくり、②地域の垣根をこえた女性部員の交流、③親子や孫との交流の場の提供を目的としている。

令和3年度から開催しており、女性部員からも好評で、年々、地域住民の参加者も増えてきている。

今年度は全3回の研修会を企画・実施。第1・2回は、「世界に一つだけのねぶた灯ろうづくり」を行い、61名参加した。

参加者は、本物のねぶた絵を切り出して作られたパーツを12枚選び、色、柄のバランスを考えて配置。灯ろうの骨組みにノリで貼り付けて完成させた。

完成後、参加者は「絵を選ぶところから配置まで自分の感性で作れて楽しかった」と笑顔で話した。

第3回は、子どもと一緒に参加できるように、夏休み期間に合わせて開催。「ボタニカルキャンドルサシェ」と「新聞ちぎり絵」を行い、105名が参加した。

参加者は好きな香りのアロマオイルとキャンドルを装飾するプリザーブドフラワーなどを選び、溶かしたアロマキャンドルの蠟を型に流し込み、固まる前に飾り付けをして完成させた。また、待ち時間には3種類の図柄の中から好きな台紙を選び、新聞のカラー面を使ってちぎり絵を作成した。

本協議会では、アンケート内容をもとに次年度の研修会内容を協議し、今後も組織基盤強化・組織活動の活性化に努めていく。



ねぶた灯ろう



アロマキャンドル



# 輝き

JA全農あおもり  
畜産酪農部 畜産酪農課  
あかいし けんたろう  
赤石 健太郎 さん

●プロフィール  
2022年4月から勤務 中泊町出身 24歳

### 働くきっかけは？

祖父が農家で、生まれた時から身近に農業があり、農業関係の仕事につきたいと思ったのがきっかけです。

### 業務内容を教えてください。

畜産・酪農と大きく分けて2つの分野がある中で私は主に畜産部門を担当しております。

### 働いた感想は？

一番衝撃的だったのは、初めて牛を出荷立会する際の牛の大きさです。先輩方は、臆することなく出荷の手伝いをし生産者に頼りにされています。私も近づけるよう頑張っていきたいと思っています。

### 仕事をする上で、日頃心がけていることは？

目配り・気配り・心配りです。相手様がいての私たちの仕事ですので、これからもこの3つを心がけて仕事をしていきたいと思っています。

### 特技・趣味は？

スポーツ観戦です。今年はサッカーやラグビーW杯などの試合中継は深夜帯に放送されることがほとんどでした。日本戦は全試合ライブで見て熱狂したファンの一人です。

### あなたが自慢できることは？

聞いている音楽の幅が広いことです。歌を聴くのが好きで通勤やドライブ時に聞かため自ずと幅広い年代の曲を浅く広く知っています。笑

### 将来の夢は？

生産者・農協さんに頼りにしてもらえる職員になりたいです。そのためには、一日一日の積み重ねしかないと思っていますので一所懸命に業務に励みたいと思います。

## 新規組合員の集い



事業内容を説明する職員

JA八戸は組合員の利便性向上と総合的な支援に力を入れている。毎年1月には、昨年度加入した組合員を対象にJA事業の理解を深めてもらうことを目的に、新規加入組合員の集いを開いている。

この取り組みは、持続可能な開発目標（SDGS）の目標4「質の高い教育をみんなに」につながる。

新規加入組合員の集いは昨年度からの取組みで、本年度も開催予定。昨年度はJA八戸の概要や部門ごとの取組み、事業内容について紹介した。新たな組合員に農協の事業を深く理解してもらうことに重点を置き、取組みを進めている。

参加者は「部門がこんなにあることを知らなかったので勉強になった。農産物即売会などのイベントに参加してみたい」と話した。



## 催事カレンダー

開催日時	JA名	イベント名	開催場所	問合せ先		備考
				部署	電話番号	
12月9日（土）～ 12月10日（日）	JA全農あおもり	青森フェア in 鹿児島	おいどん市場 与次郎館	広報宣伝総合課	017-729-8637	
12月28日（木）	JA全農あおもり	歳末市	県農協会館	広報宣伝総合課	017-729-8637	





人気を集めるニンニク加工品

J A十和田おいらせが販売する低臭処理を施した「プレミアムにんにく」の加工品が、J A直売所「かだぁ〜れ」で人気を集めている。機能性成分を手軽に摂取できると好評で、年々販路を拡大。ニンニクの生産量日本一の当産地で、産地強化や他産地との差別化を図っている。

加工品は、特許製法の低臭加工を施した「プレミアムにんにく」と粉末化した「プレミアムにんにくパウダー」、パウダーを使用した「元気満点ドリンク『にんにく魂』」で「にんにく三兄弟」の愛称で親しまれている。2020年には、熟成させたまろやかな味わいの「黒にんにく」も新登場し、J A直売所やネットショップなどで販売している。

中でも「プレミアムにんにくパウダー」は、ニンニクの形をしたボトルがリアルでかわいいとロコミなどで広がっている。

指導やさい部やさい販売課の林佳奈さんは「240人のモニタリング調査から、85%の人が食後の臭いが翌日まで残らないという結果が出ている。日々の生活にニンニクを気軽に取り入れてほしい」とPRしている。

## 後編 編集 記 集

11月下旬、初雪で景色が白くなり、冬の季節が到来ですね！

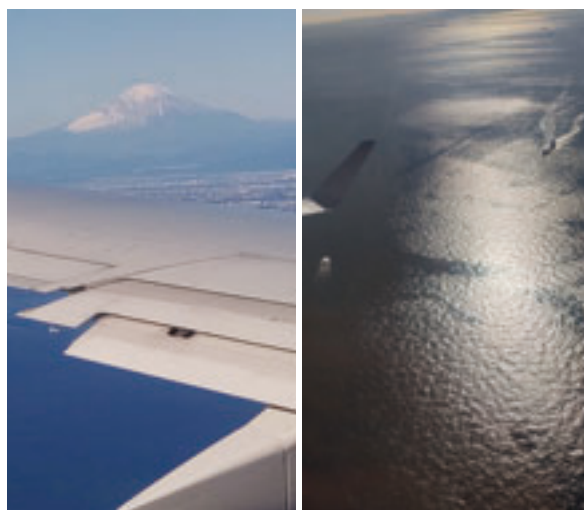
今回の写真は飛行機から見た景色を2点。11月県外に行った時で羽田空港へ着陸前に撮ったものです。

左が富士山の写真で、青空のもと雪で白くなった富士山が印象的でした。右は空港近くの海の写真で、太陽に照らされた海面を2隻の船の航跡が残り印象的でした。

機会があれば誰でも撮れそうな、ごくありふれた写真ですが、いかがでしたか？

皆さんもぜひチャレンジしてみてください！

それでは皆様、「SEE YOU ON JANUARY!」(一)



## ホームページアドレス

- J A青森中央会 <https://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/>  
イベントの様子、歳時記、産直・J A情報などをご覧いただけます。
- J Aバンク青森 <https://aomori.jabank.org/>  
商品・サービスのご案内のほか、マネーシミュレーションや全国のJ Aバンクへのリンク等をご覧いただけます。
- J A全農あおもり <https://www.zennoh.or.jp/am/>  
生産量日本一のりんご・にんにく・ごぼうをはじめとした農畜産物情報や活動状況、中古農機情報を紹介しております。
- J A共済連青森 <https://www.jakyosai-aomori.jp>  
J A共済のご案内のほか、地域貢献活動の取組みを紹介しております。